

横手市立中学校生徒・保護者の皆様へ

部活動地域展開モデル事業「演劇ワークショップ」の開催について(募集)

～演劇を通して、舞台に立つすばらしさに触れてみませんか～

横手市教育委員会教育指導課

「部活動地域展開だより No1」でお知らせしましたように、今年度から6年間にわたり「部活動改革実行期間」と位置付け、部活動の地域展開等の全国的な実施を推進することとなりました。

横手市としても、将来にわたって子どもたちが充実したスポーツ・文化芸術活動に親しむことができる環境を整備するために、学校部活動を地域と連携しながら実施したり、地域のスポーツ・文化芸術活動へ移行する取組を進めたりしています。

その一環として、「劇団かんじき」のご協力をいただき、横手市内の中学生を対象とした文化活動の地域クラブモデル事業として、「演劇ワークショップ」を次のように計画いたしました。演劇に興味のある生徒さんは、保護者の方と相談のうえ、申し込みくださいますようお願いいたします。

1 開催日時

全て参加しなければならないということはありません。参加したい回を選択してください

	月 日	曜	時 間	内 容
第1回	令和8年7月25日	土	14:00～17:00	演技の基本的な事(発声練習)
第2回	令和8年7月29日	水	14:00～17:00	台本の基本的な読み方
第3回	令和8年8月1日	土	14:00～17:00	芝居の稽古・舞台演出
第4回	令和8年8月5日	水	14:00～17:00	芝居の稽古・舞台演出
第5回	令和8年8月8日	土	14:00～17:00	成果発表

2 会 場 朝倉地区交流センター「あさくら館」 横手市朝倉町 6-38 (☎35-2138)

3 内 容 発声や台本の読み方など演技の基本、芝居・演技の練習および舞台演出を体験し、最終日に演技・演出の成果を発表します。

4 対 象 横手市内中学校1年生～3年生

5 指導者 劇団「かんじき」 代表：土谷 久男
・日本演出者協会会員 ・秋田県演劇団体連盟 副理事

6 参加費 参加費無料、保険料実費(50円×参加回数)

7 申込み 保護者の了承を得て、「申込みフォーム」から申し込んでください。

申込フォーム⇒「<https://forms.gle/q84dx8MN7zwNDpnD7>」

下の二次元コードからも申し込みできます。

※令和8年7月21日(火)申込締め切り8 連 絡

- ・保護者の責任のもとで、会場への送迎をお願いします。見学は自由です。
- ・学校行事や学習活動の日程と重複する場合は、そちらを優先してください。
- ・現在所属している部活動やクラブの練習日程と重複する場合は、顧問の先生やコーチに相談して参加を決めるようお願いいたします。
- ・参加にあたっての連絡は、登録いただくメールアドレス宛に行います。ご自宅で連絡内容を確認いただくことが考えられますので、ご自宅のPCやスマートフォン等で申し込んでください。

【お問合せ先】

横手市教育委員会教育指導部教育指導課
部活動地域展開コーディネーター 菅 雅彦〒013-8601 横手市条里一丁目1番64号
(横手市役所条里南庁舎) ☎0182-35-2123

申込フォーム



横手のチカラ

劇団かんじき 代表 土谷 久男さん



つちやひさお/57歳/横手地域在住
 ・映画、ドラマへ出演(ザ・ラストショット、いのちの山河など)
 ・2016年 黒川小学校 開校記念ミュージカル 演出担当
 ・2016年~秋田県高校演劇 秋田県大会 審査員 など

笑いを追求し、人間の心の動きを表現

演劇の聖地、東京下北沢で全編秋田弁の芝居を行ったのが2018年12月。3日間て延べ140人以上が来場し、会場が笑い感動に包まれた。代表を務める土谷久男さんが、「下北沢で自主公演を行う」という夢を叶えた瞬間だった。

幼い頃から人を笑わせるのが好きで、クラスではひょうきん者だったという。高校卒業後に上京し就職。2年間、仕事をしながら下北沢で芝居をしていた。21歳のとき横手に戻り地元企業に就職するが演劇の道を諦めきれず、老舗劇団「横手演劇研究会(昭和22年創設)」に所属。「研究会にいた頃、芝居についてはもちろん劇団の運営についてもいろいろ学ばせてもらいました」と、当時を振り返る。退団後、2000年11月に横手市山内地域で「劇団かんじき」を旗揚げした。「これまで芝居を続けてこられたのは、職場の人たちや家族の支えがあったからです。練習のために勤務時間も融通させてもらい、夜に稽古するもんだから子どもの寝顔しか見えない時期もあつたね。それでもやっぱり、芝居が好きだった。これはもう病気だよ(笑)」。

設立から19年経った今、当初5人だった劇団員は8人となった。高校生や教員、看護師など職業も年齢も多彩な顔ぶれで活動している。オリジナル作品を中心に2年に1回のペースで定期公演を行いながら、県内外へも遠征。台本の70%80%は方言を使用していて、家族愛をテーマにした作品が多い。笑いを徹底的に追求し人間が持っている苦しみや悩み、喜び、悲しみなど心の動きに焦点をあてた作品が演劇ファンに支持されている。「観客のお金と時間をいっただいで舞台に立っている以上、プロアマ関係ないよ。いいかげんなことはできない」と、稽古は週3回、仕事を終えた夜に集まり、3時間以上は行う。「いくらやっても芝居に正解はないからね、難しいよ。仮に正解があるとすれば芝居を観た人がどう思うか、どう感じたかだけだろうね」。

演劇人として 自分にできることを

自主公演に向けた活動のほか、小中学校へ出向いて演技や方言の指導なども行っている。「横手の演劇ファンを増やしたい、演劇人を育てたいという一心です。そのためには子どもたちにも芝居を教えるのも必要ですが、まずは芝居を教える側、指導者の質を高めたいと思っています」。

秋田弁を愛し、地元根ざした。おらほの劇団は、生身の人間が表現する演劇の熱を地域に届けるため尽力している。「またいつか下北沢で公演を行うよ」と土谷さん。未だその日に向け、今日もまた稽古で汗を流している。



東京下北沢公演「結婚の申し込み」の写真。写真中央が土谷さん。



写真上から、「いとしの家族」「めくらぶんど」山内公演の写真。

(劇団かんじき自主上演作品)
 ・チュー・ホフ原作 伊賀山三訳「結婚の申し込み」
 ・川村光夫作(若手どう座)「めくらぶんど」
 ・堤 善之作「雉が目にしみる」
 その他オリジナル作品10作以上